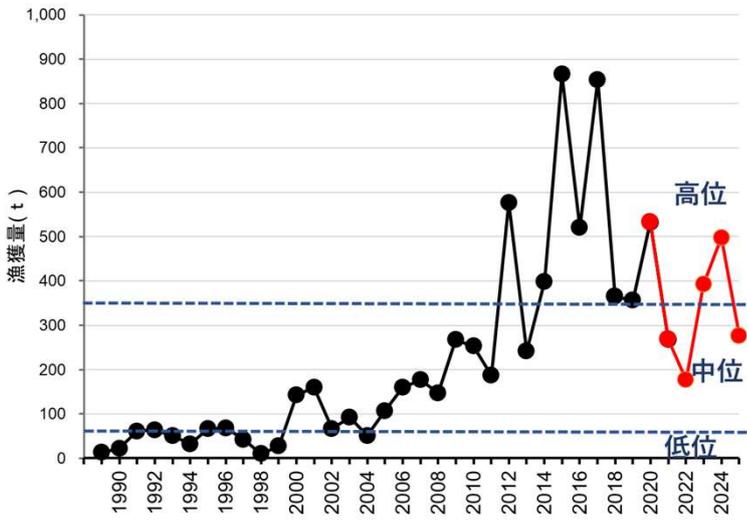


ブリ

令和8年1月

資源の動向 「中位・減少」



ブリ漁獲量の経年変化
(西湘定置網: 1989~2025年)

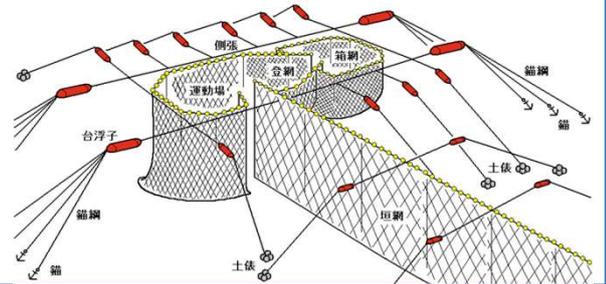
ブリ資源量は2009年以降増加傾向となり、2017年をピークに現在も高い水準を維持している。

相模湾西湘地域のブリ漁獲量は、2000年代に増加傾向となり、2012年以降は増減を繰り返している。2023、2024年と好漁であったが、2025年の漁獲量は減少した。相模湾におけるブリ資源は、「中位」、動向は「減少」と評価された。

対象漁業

○定置網

定置網の構造と各部の名称



生物学的特性



○分布: 日本の沿岸全域に分布する回遊魚

○成長: ブリは出世魚として知られ、本県では成長段階ごとにワカシ→イナダ→ワラサ→ブリと呼び名が変わる。未成魚(ワカシ、イナダ)は、大きな回遊はしない。成魚になると産卵のため南下回遊するが、大規模な回遊するのは4歳以上のブリと考えられている。

○産卵: 産卵期は1月~5月で、ブリの稚魚(モジャコ)は流れ藻によって輸送されるが、相模湾にはワカシに成長して来遊する。